

フューチャー・デザインで大学の未来を考える

佐藤 浩輔(大阪体育大学 庶務部学長室担当 チーフ)

塩川 雅美(龍谷大学 グローバル教育推進アドバイザー)

小林 諒太郎(大阪経済大学 総務部人事課)

森下 覚(東京都市大学 総合企画局 企画・広報部 企画・広報課 課長補佐)

講師略歴

【佐藤浩輔】平成20年度より大学職員として勤務し、学校法人大阪青山学園の図書館・総務部庶務課を経て、平成31年度より大阪体育大学へ転職。大阪体育大学では、庶務部研究支援担当を経験して現職。平成30年度にSDC養成講座を修了(令和5年度 愛媛大学教職員能力開発拠点SDコーディネーター(SDC)認定)。

【塩川 雅美】SDコーディネーター(SDC)として SPOD で等の講師を務め、大学コンソーシアム大阪のSD研修事業立ち上げにコーディネーターとして貢献。長年、国際交流分野や能力開発のための多様な研修会を企画・運営・実施。コロナ禍で対面研修が困難だった令和3年春、「大学のためのFuture Design 研究会」を設立し、オンライン講演会やワークショップを開催。

【小林 諒太郎】所属大学の人事課で業務として職員研修の企画運営を行っており、平成30年度にSDC養成講座を受講している。また、インストラクショナルデザインについて学ぶため、令和3年度に熊本大学大学院教授システム学専攻にて科目等履修。令和4年度から同専攻博士前期課程在学中。

【森下 覚】所属大学の企画・広報課で内部質保証の学内説明会を大学基準協会と連携し実施。また、世田谷 PF 主催「IR 研修会」講師として自大学の取り組みを共有。大学行政管理学会の研究・研修委員会委員として研修会の企画・運営を担当。直近では、新入会員向けの「JUAM で泳ごう」の企画運営チームリーダーを務めた。

プログラム概要

あらゆる側面、分野、社会において「予測困難」と言われている現在から「これからの大学」を考えることは難しい。近年、予測不可能な社会課題解決のアプローチとして注目されている手法が「フューチャー・デザイン」です。中央省庁においても、フューチャー・デザインの社会的認知拡大を図るとともに活用に取り組んでいます。

具体的には、まず、パストデザイン法により、現在から過去の選択を振り返り、実際に実現していることとは違う仮想的な現在の大学像を描きます。次にバックキャスト法により、現在から未来を見つめて、将来予想される大学像実現の課題に向けて「何をすべきなのか」を考えます。そして、フューチャー・デザインにより「仮想未来人」として未来から現在の大学の課題を見つめ、影響がある将来世代の立場に立って議論します。

これらの手法を用いることで、通常の現代世代とは異なる発想で「これからの大学」はどうあるべきかを考える体験をすることで各大学が直面している課題に対して未来をデザインするアプローチを学ぶ機会にします。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

・教職員

到達目標

1. フューチャー・デザインについて説明できる。
2. 「温故知新」：歴史に学ぶ重要性について説明できる。
3. これから起こることを感知する重要性を説明できる。